

風疹アウトブレイクの積極的疫学調査 事業所の集団発生から

国立感染症研究所感染症疫学センター

中島一敏、八幡裕一郎、松井珠乃、多屋馨子、砂川富正、大石和徳
実地疫学専門家養成コース（FETP）

牧野友彦、伊東宏明、金山敦弘

風疹届け出基準 感染症発生動向調査(NESID)

- ・ 検査診断例

- 臨床症状の1つ以上、かつ、病原体診断のいずれかを満たすもの

- ・ 臨床診断例

- 届出に必要な**臨床症状の3つすべて**を満たすもの

- ・ 届出に必要な臨床症状

- **全身性の発疹**(小紅斑や紅色丘疹)、**発熱**、**リンパ節腫脹**

- ・ 届出に必要な病原体診断

- 分離・同定による病原体の検出
 - PCR法による病原体の遺伝子の検出
 - 抗体の検出(血清IgM抗体、ペア血清での抗体陽転又は有意上昇)

2013年風疹流行の特徴

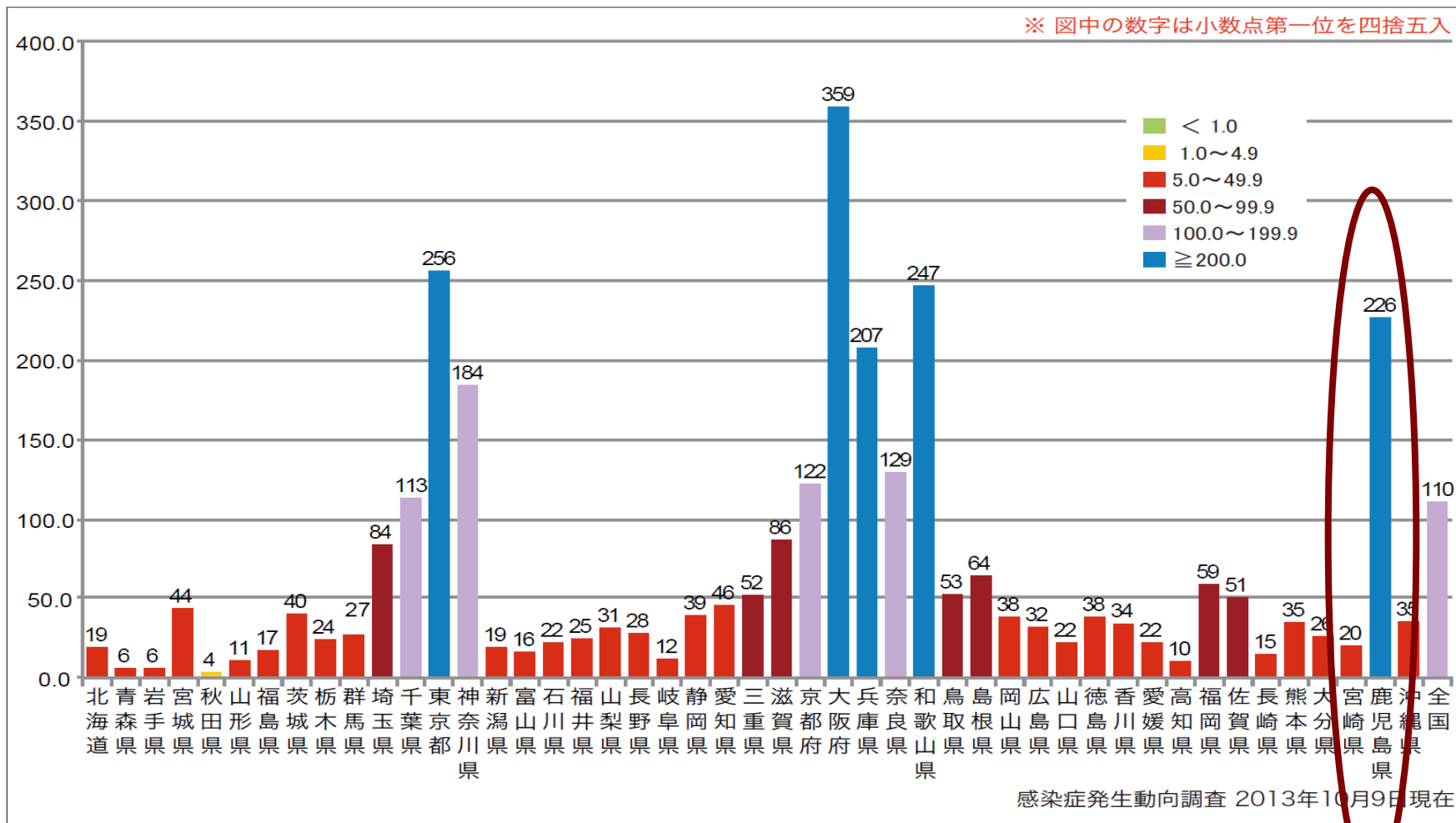
リスクアセスメント第二版から(2013年9月30日現在)

- ・ 風疹症例数: 14,033人(1/1~9/18報告)
 - 男:女 = 10,757(77%):3,276(23%)
 - 20~40代男:8,809人(63%), 20代女:1,326人(9.4%)
- ・ 感染の場(1/1~9/11報告)
 - 職場: 1154人
 - 家庭: 689人
 - 学校: 145人
 - 医療機関: 15人

8. 都道府県別人口百万人あたり風しん報告数 2013年 第1~40週 (n=14,145)

Number of reported cases per 1 million population by prefectures from week 1 to week 40, 2013
(as of October 9, 2013).

■ < 1.0
 ■ 1.0~4.9
 ■ 5.0~49.9
 ■ 50.0~99.9
 ■ 100.0~199.9
 ■ ≥ 200.0



川薩保健所管内のNESID届け出風疹症 例の特徴(2013.1.1～6.14)

- ・ 鹿児島県の報告症例の85%(5/28現在)

- ・ 計285人

- 男:女 = 225人(79%): 60人(21%)

- 20～40代男:62%、20～30代女:7%

全国の流行と類似した発生状況

- ・ ワクチン接種歴

- 1回:5人(2%)、2回:3人(1%)

風疹の典型的な症状(三徴)を満たすのは一部

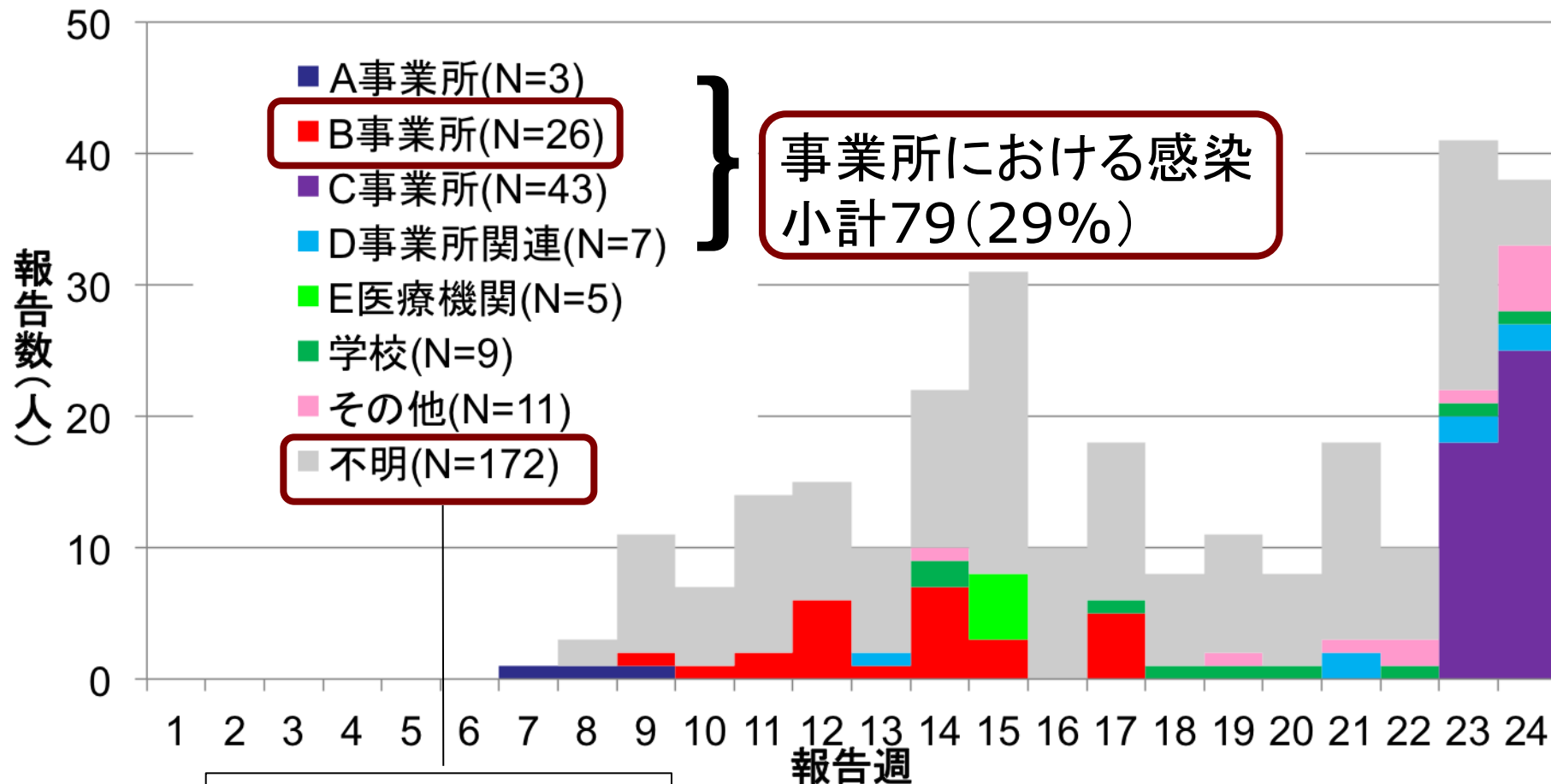
- ・ 検査診断例:169例(59%)(うちPCR確定:1)の症状

- 三徴(発熱・発疹・リンパ節腫脹)あり 42%

- 二つみられる症例 45%

- 一つだけ見られる症例 13%

川薩保健所管内風疹届け出症例 所属別発症日による流行曲線 (N=276)



B事業所職員における風疹発生状況調査

(2013.1.1～6.14)

- ・ NESID未報告の風疹疑い患者の掘り起こし

- － 全職員(660人)対象のアンケート調査

- [調査期間2013.6.11-14、回答652人(回答率99%)]

- ① 診断例

- － 医療機関で風しんと診断された者

- ② 疑い例

- － 医療機関では風しんとの診断なし、かつ

- － 全身性の発疹または皮膚の発赤、かつ

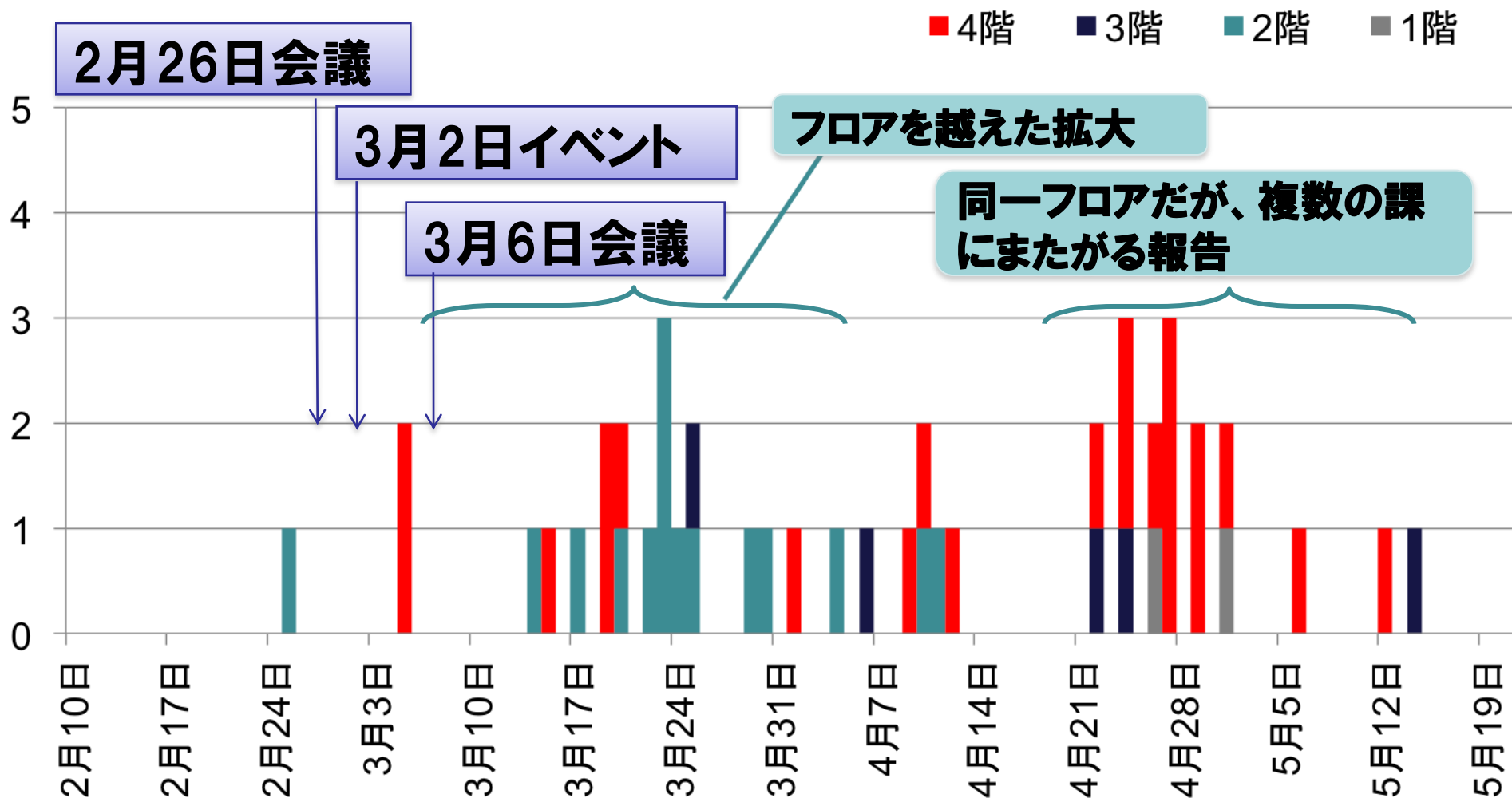
- － リンパ節腫脹または発熱

B事業所の症例全体像・対策

- 疑い例を含む有症者:46例
 - 発症率:46/652(7%)
 - 医療機関受診者:45例
 - 医療機関で診断:35例
- 発生動向調査に届出されたB事業所の症例:26例

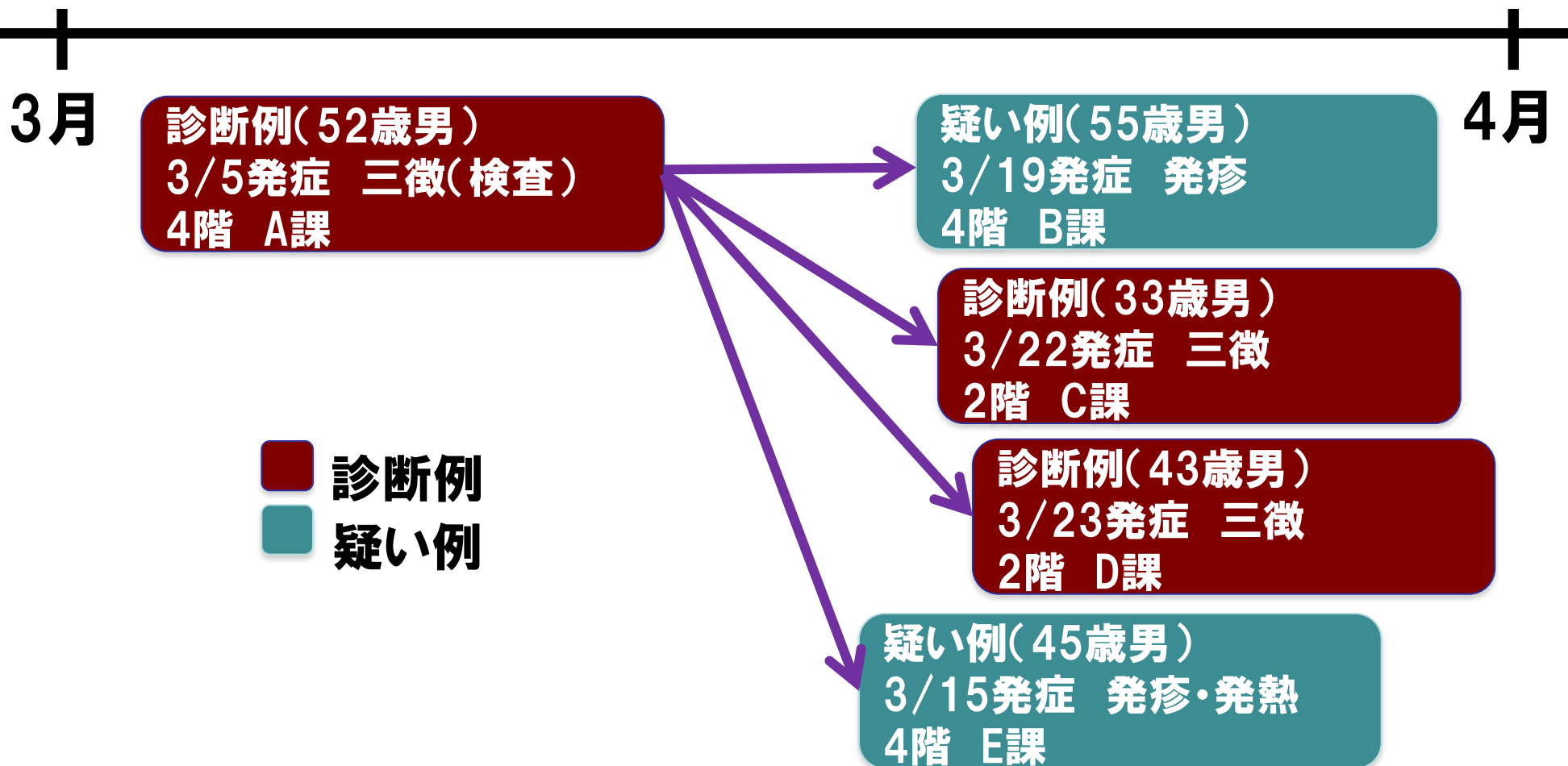
**報告症例数の1.8倍の風疹患者の発生が疑われた
医療機関での診断 > NESID報告**

B事業所疑い例発病日(N=44)

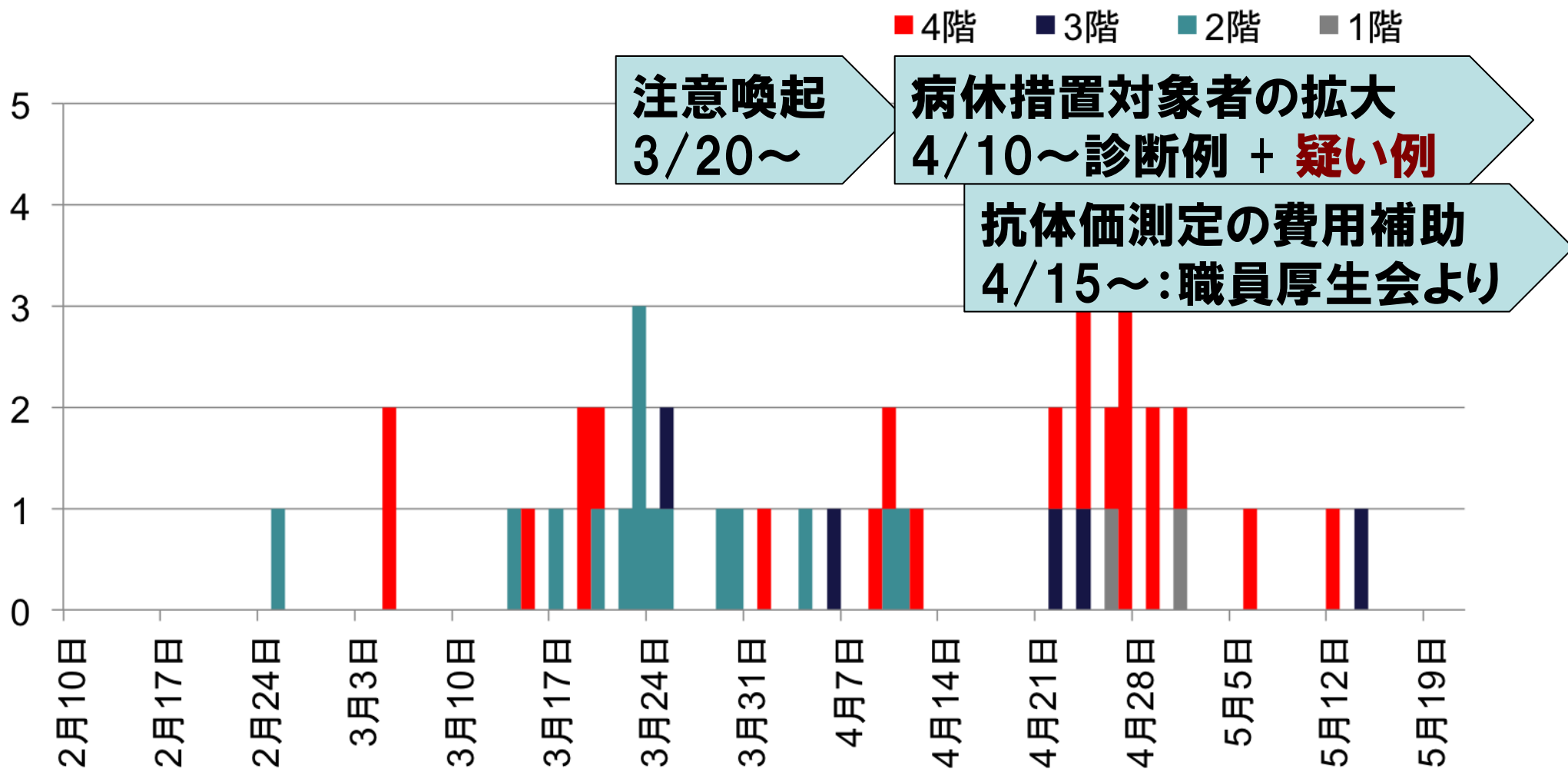


11週間にわたる流行

3月6日会議に出席した症例間の フロアーを越えたリンク

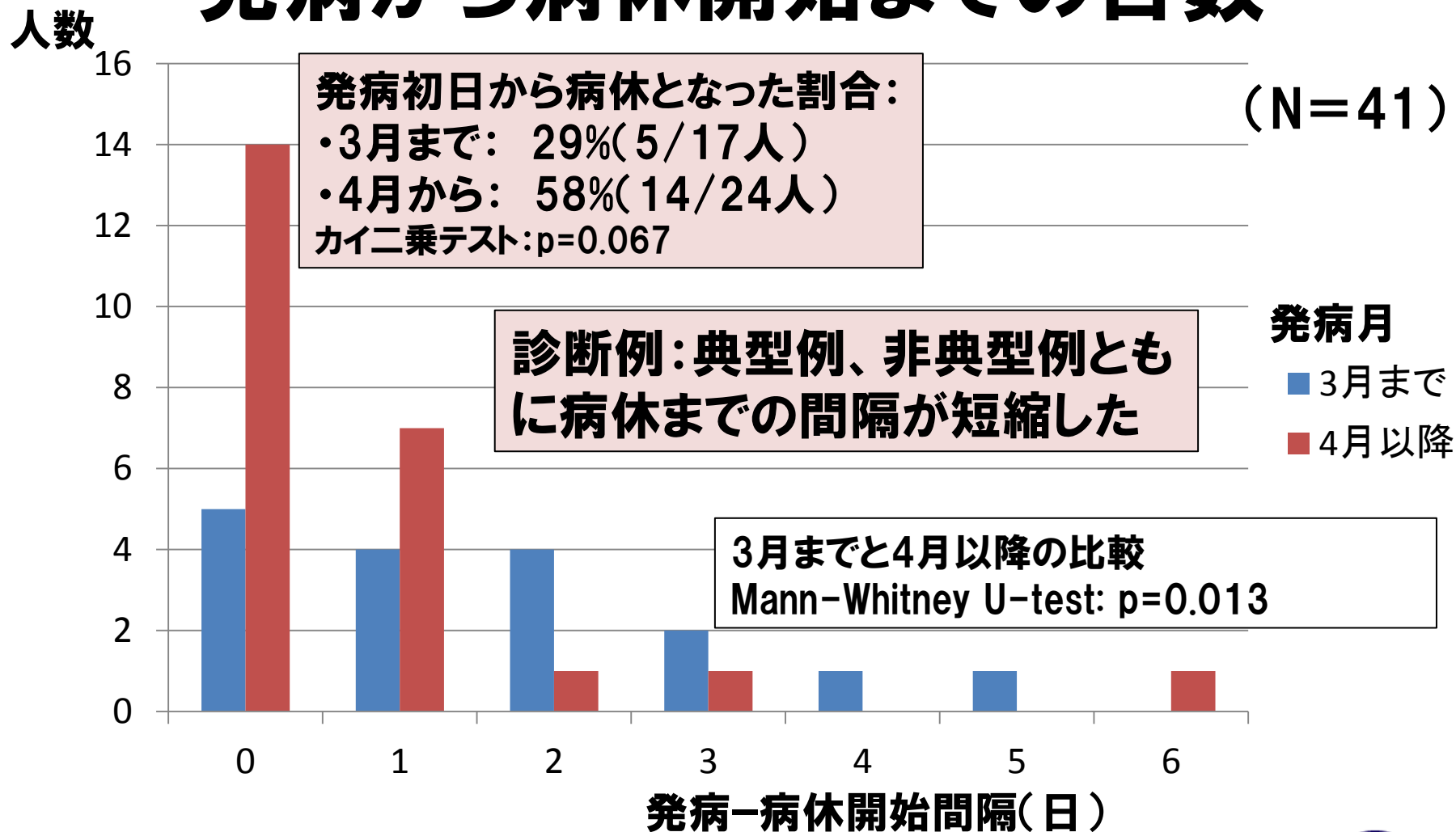


B事業所における対策



11週間にわたる流行

B事業所風疹症例の 発病から病休開始までの日数



まとめ：川薩保健所管内風疹流行2013

- 人口あたりの風疹報告数は高かった
- 全国同様、20～40代男性が6割
- 報告数の3割が事業所による発生
- 地域流行の初期にB事業所での感染拡大
- B事業所の風疹アウトブレイク
 - 全職員の7%(46人)が発病
 - 届け出症例の約2倍の症例数
 - 11週以上にわたり徐々に感染拡大(9週までは拡大傾向)
 - 発病者との接触によるフロアーや部局を越えた拡大
 - 病休措置対象者の拡大実施(未診断の風疹疑い者)
 - 早期対応による流行期間短縮、患者減少の可能性

積極的疫学調査の成果

- 風疹未診断、未報告症例の把握
 - 臨床診断の限界
- 流行範囲(期間・地域・人)の特定
 - アウトブレイク対策はオン・オフが必要
- 感染拡大のリスクの特定
- アウトブレイクの現状(リスク)評価と情報還元
- 対策の推進
- アウトブレイク終息の確認

謝辞

鹿児島県川薩保健所、薩摩川内市、さつま町役場、
北薩教育事務所、薩摩川内市教育委員会、具志ひふ
科クリニック、坂口病院、宮崎小児科、相良医院、久
留医院、川内子供クリニック、済生会川内病院、田島
産婦人科、川原産婦人科、河村医院産婦人科内科医
院、医師会